

ダンボール堆肥の作り方

用意するもの

- 10kg程度のミカン箱程度のダンボール箱（なるべく厚いもの）
- 新聞紙（1日分）
- 紙製の粘着テープ
- ピートモス 1.8kg & もみ殻燻炭 1.2kg（割合3：2）
- 園芸用移植ごて
- 置台（牛乳パックなど）
- カバーとなる古布
- ゴム紐など
- 温度計（あると便利）

◇ダンボールコンポストの組み立て



①ダンボールの底をテープでとめます。



②箱の底に新聞紙を敷きテープでとめます。



③ふたの部分を立ててテープでとめます。



④ふたのふち・持ち手の穴・接合部分もテープを張ります。



⑤外からの虫の侵入を防ぐため古布でカバーをしてゴム紐などでとめます。

◇置き場所を決める

- ①風通しや日当たりのいい雨に当たらない場所（ベランダや軒下）に置きます。
- ②置台の上に箱を乗せて通気性を確保します。（レンガなどでもOK）

◇堆肥づくりを始める

- ①ピートモスともみ殻燻炭を作った容器に入れよくかき混ぜます。
- ②始めは水 500ml くらい入れます。（米のとぎ汁など）
☆水分量の目安は握って形が残る程度
- ③1日の投入量の目安は 500g（三角コーナー1杯分）くらい
- ④生ごみは小さく切った方が分解が早くすすみます。

《入れないほうがよいもの》

- 鶏や豚などの大きな骨
- シジミ、アサリなどの貝殻
- トウモロコシの芯
- 玉ねぎの外皮
- 塩辛や漬物など塩分の多いもの
- 桃などの大きな種
- 腐ったもの
- 食品以外のもの（タバコの吸い殻やペットの糞など）

☆あまり神経質にならず、入れて分解しなかったらその都度取り出して可燃ごみとして捨てましょう。

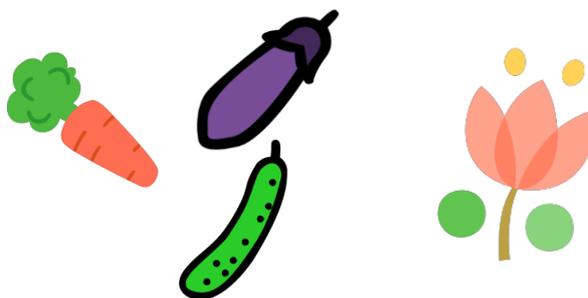
これ大事！

◇お手入れについて

- 生ごみを入れない日でも 1 日 1 回は移植ごてで全体をかき混ぜて空気を入れましょう。
- 乾燥気味になったら米のとぎ汁など少し足すと水分調整ができます。
- 温度計で内部の温度を測ります。温度が高くなると発酵がすすんでいることが実感できます。
- 温度が上がらず発酵が進まないときは米ぬかや、使用済みの食用油（コップ 1 杯程度）などを入れて下さい。（米ぬかは新しいものを入れましょう 古いと虫がわきやすいです）

◇生ごみの投入終了と熟成

- ①全体が黒っぽくなり、分解が進まなくなったらそろそろ終了です。（かき混ぜると重い感じ）
- ②期間の目安は 4 人家族・1 日 500g 投入×3 か月程度ですが、生ごみの種類・入れる量・季節によって差があります。
- ③終了後は 2～3 日間時々かき混ぜて下さい。
- ④庭や畑などがある人は穴を掘って土を混ぜると 1 か月程度で熟成します
- ⑤ダンボール箱のまま熟成する場合は、10 日に 1 回位 500ml 程度の水を入れてよくかき混ぜます。
熱がなくなったら完成です。（約 2 か月位）
- ⑥新しく始めるときは、前回の堆肥を 3 分の 1 程度残して混ぜて下さい。



◇トラブル解決法

★もし、虫が発生したら・・・

- 使用済みの食用油を入れ内部の温度を上げ、高温にすることでいなくなります
- それでも発生する場合はビニールでダンボールを覆い、1～2 日放置すると高温と酸欠により死にます
→死んだ虫も分解されて栄養になるので取り除く必要はありません。

★悪臭が発生したら・・・

- 生魚や肉類などの投入量が多いとアンモニア臭が出ることがありますので、食べ残ししないよう心がけましょう。
- もみ殻燻炭やコーヒーかすは消臭効果があります。

★白カビが発生したら・・・

→糸状菌という微生物が活発に働いている証拠なので心配ありません。ただし、カビアレルギーのある方は注意して下さい。

【信州ごみげんねっと ダンボールコンポストの作り方 2017.9 を参考に作成】

